2017年12月1日掲載　日刊建設工業新聞

富山・朝日町で小水力発電

水道とセット　信託方式で施設整備

深松組

深松組（仙台市青葉区、深松努社長）は、同社創業の地である富山県朝日町で小水力発電事業に乗り出す。同町の笹川地区に100キロワット未満のマイクロ発電所と関連施設を新設し、北陸電力に売電。その利益を同地区内の老朽化した上水道の更新費用に還元する。事業手法には包括信託を採用。来年から現地調査を開始する予定だ。

深松組は1925年、創業者の深松幸太郎氏が同町での水力発電所建設工事を機に創業した経緯があり、現在も北陸支店を同町に置いている。こうした縁から深松社長が小水力発電の事業化を提案し、水道整備と結び付ける今回のプロジェクトが始動した。

山村の笹川地区には115世帯が生活。上水道施設の管理運営は地元の笹川振興自治区が行っているが、地区全域で管路施設の老朽化が進んでおり、居住者負担を抑制しつつ、設備更新費をいかに捻出するかが大きな課題となっている。

そこで小水力発電と水道事業を組み合わせた「笹川プロジェクト」により、売電代金と水道利用料金を管路施設整備費に充てる仕組みを考案した。

包括信託口には同様の事業で実績を持つすみれ地域信託（岐阜県高山市）を立て、役務（設計・調達・プラント建設）および管理業務者として地域小水力発電（高知県香美市）、土木工事で深松組がそれぞれ参画。深松組は委託者兼劣後受益者となる。

深松社長は「全体資金で約5億円を試算しており、一部を当社が負担し銀行融資を受ける。笹川振興自治区にも水道施設管理運営者として参加していただく。この方式の最大の利点は、地域に対して社会資本整備のかたちで貢献できること」と事業目的を述べる。

小水力発電は地区内を流れる笹川の流量と落差を利用する。水利権や漁業権などについては地元説明が完了、合意を得ているという。通常の水道事業として進めた場合、事業費や水利権などの課題で完成まで5年程度かかる見込みだが、同地区では、現地調査の結果を踏まえ19年7月にも着工、20年夏ごろに完成できる見通しだ。

FUKAMATSU